

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	広島支部	(2) 記載者氏名:	佐々木 弘磨	会員番号:	12693	事務局整理記入欄	広島 - 093
分水嶺区分	W568平家岳, W571米山峠	(3) 山行日:	2005年	7月	10日	(4) 天候	雨

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

吉村 千春	11549						
吉村 豊	吉村家族						
野間 弘	12662						
佐々木弘磨	12693						
計				4名			
計				名			

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	平家屋敷跡(幕営地)~尾茂越え~平家岳~平家屋敷跡~小西~ドウギレ峠~米山峠												
アプローチ:	米山峠~7日市~六日市~松ノ木峠~広島												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
	平家屋敷跡	周防広瀬	131	53	41.24	34	18	59.99	823		7:50		(10)
(幕営地から歩行開始点へ車で移動)													
歩行開始点	尾茂越え	周防広瀬	131	54	2.06	34	19	14.00	952	8:05		A-1	(10)
分水嶺点 W658	平家岳	周防広瀬	131	53	54.14	34	19	24.86	1,058	8:25	8:35	A-1	(10)
歩行終了点	尾茂越え	周防広瀬	131	54	2.06	34	19	14.00	952	8:45		A-1	(10)
(ここから平家屋敷跡へ車で移動)													
歩行開始点	平家屋敷跡	周防広瀬	131	53	41.24	34	18	59.99	823	8:55			(10)
	木谷川源流	周防広瀬	131	53	29.66	34	18	13.36	860	9:10			(10)
(源流沿い林道途中のこの地点(荒田山分岐に至る登山口)から引き返す)													
歩行終了点	平家屋敷跡	周防広瀬	131	53	41.24	34	18	59.99	823	9:20			(10)
降雨による林道の崩壊が予測される為、踏査を打ち切り小西、ドウギレ峠経由で米山峠へ向かう。													
分水嶺点 W571	米山峠	筋ヶ岳	131	51	39.89	34	18	38.31	756	10:00			(10)
												総歩行時間(休憩時間を除く):	

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
W568	平家ヶ岳	2	真南	良好	

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点


(9) 水および植生に関連した特記事項


(10) その他の特記事項

W568平家岳からW571米山峠は島根県と山口県の県境に位置する分水嶺である。北側に高津川水系の支流で蓼野川、南側に錦川水系の支流で木谷川に挟まれている。この山域の踏査も一つ縄では難しい為、前調査を実施するも昨日からの降雨で、平家屋敷跡周辺のみ調査に留まる。

木谷川の源流から分水嶺稜線に至る支尾根、谷の標高差は約200m、登る事は可能だが藪漕ぎでアルバイトの覚悟が必要となる。今回、源流沿い林道の途中地点、即ち、荒田山分岐に至る登山口から引き返す。この地点から荒田分岐を経て平家岳の西側分水嶺稜線は踏査済みに付き省略。平家岳の東側分水嶺稜線は相変わらず藪漕ぎが予想される。この稜線踏査では北側に踏み込むことなく何れの場合も尾茂川側に下りたい。

平家屋敷跡は清流の傍にあり、現在は僅か平らの土地に山師の飯場があるのみの静かな場所であつた。

壇ノ浦の合戦に敗れた平家一門の松前隼人守? は一時「馬糞岳」に移り住んだと言う。しかし、源氏の知る所となり、松前一族は源氏の追つてから逃れる為、この木谷峡の源流に移り住み農耕や木地師をして暮らしたと記す看板が立つ。

木谷峡の木地屋、大固屋集落と松前一族との関係や如何に? 義経ドラマの終わらない熱いうちに訪ねて見たい集落である。

雨の為、早々に切り上げ深谷温泉にて汗を流し、吉和冠高原で残り飯で満腹になり帰る。

(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
W568A: 平家ヶ岳